

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2019.3.31 No.60

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

・ 岩口 敬子「折田悦郎氏の講演をきいて」	1
・ 菊池 義輝「全国研究会（テーマ「大学史資料の収集と活用」）に参加して」	3
・ 長嶋健太郎「第 112 回研究会（フェリス学院大学）に参加して」	4
・ 長谷川倫子「東日本部会第 113 回研究会に参加して — 2019 年度の企画展について—」	5
・ 全国大学史資料協議会 2018 年度総会議事録・講演会記録	7
・ 全国大学史資料協議会 2018 年度役員会議事録	8
・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	9
・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	10
・ 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	15

2018 年 10 月 10 日～12 日 全国大学史資料協議会 2018 年度総会ならびに全国研究会・講演

折田悦郎氏の講演をきいて

拓殖大学創立百年史編纂室 岩口 敬子

全国大学史資料協議会 2018 年度総会ならびに全国研究会は、10 月 10 日から 3 日間の日程で九州大学にて開催された。第 1 日の講演会では、折田悦郎氏（九州大学 大学文書館副館長、大学院統合新領域学府 副学府長）が「大学史資料と大学アーカイヴズ—九州大学大学文書館の課題と展望—」をテーマに講演された。詳細かつ豊富な資料をもとに、話された内容は、国立大学文書館の実態とはいえ、本編纂室にとっても非常に

参考になり、多くの知見を得ることができた。以下、簡単ではあるが、講演の概要と筆者の感想を述べたい。

講演は資料をもとに、以下の順に進められた。

1. 九州大学大学文書館の概要
2. 大学文書館前史—75 年史編集室、大学史料室—
3. 九州大学大学文書館の活動
 - 1) 資料の収集（移管）・整理・保存・公開
 - 2) 調査・研究活動



講演の様子

3) 教育活動

4) その他の活動

4. 今後の課題

九州大学大学文書館は 2005 年に発足し、今年で 13 年目であるが、多くの大学が年史編纂から引き継いだように、1985 年に設置された「九州大学七十五年史編集室」が前身となる。編集室を終える前から、「大学アーカイヴズとは何か」ということを他大学の事例を参考に、また交流等を通じて深めながら準備され、最終的に「法人文書を中心に保存していく」という明確な目標をたて、大学史料室としての提言・条件等をまとめていかれたということであった。

次に文書館の活動について詳細な説明がなされたが、特に印象的であったことをいくつか述べたい。一つは資料収集の範囲について、キャンパスの「移転プロジェクト」にて箱崎キャンパスをドローンで撮影し記録したり、またキャンパスの模型を製作・公開されたということである。過去の資料だけでなく、

現在にも目を向けられ、将来のことを見据えた活動に感銘を受けた。二つ目は、共同研究の多さである。「研究を行わないと、何を残すべきか、正確な判断ができない、そしてレファレンス対応・広報活動ができない」、また「自校史教育の基礎となるのも研究活動である」とのお話は最も感銘を受けた。

三つ目は大学と地域の関係の深さである。「地域の協力(寄付等)がなければ九大はなかった」とお話されたように、地域とのつながりが深く、新聞等でも大学に関する記事がない日はないというように、資料の新聞掲載記事一覧には、様々な角度から大学に関する報道がされていた。地域からの関心の高さ、またそれにこたえる大学として、繋がりを感じた。さらに、自校史について、国立大学では最初の試みであったということ、また百年史を WEB 上で公開しているなど、先進的な取組をされていることにも刺激を受けた。

今後の課題として、電子文書の管理、学内 MLA 運営について等、どの大学においても共通して関係するような問題もあげられた。また予算をどのように確保するか、それよりも人材、ポストについての方が重要ではないかということも提起され、非常に共感した。講演の最後の最後まで自身の大学であればどうだろうかと重ねながら拝聴することができ、大変勉強させていただいた。

講演を通して、研究の重要性を改めて認識

した。資料は減ることはなく、増える一方である。今回の全国研究会のテーマは「大学史資料の収集の範囲」であったが、大学史について継続的に深く研究していくことは、何を残すべきかというその収集範囲だけでなく、レファレンス対応、広報活動、自校史等の様々な面においても、有効である

全国大学史資料協議会 2018 年度全国研究会

全国研究会（テーマ「大学史資料の収集と活用」）に参加して

学校法人国士舘 国士舘史資料室 菊池 義輝

2018 年 10 月 11 日、掲題の研究会が九州大学医学部 100 年講堂を会場として開催された。研究会の目的は、多様かつ多量の大学史資料の収集・活用に際して、適切な収集範囲を設定する糸口や難しさに関する相互理解を深めることであった。

第一報告の古野貢氏（武庫川女子大学）「学院資料収集の実践と課題」は、周年史編纂において史資料となる事務文書の移管と整理・保存をシステムティックに行うことを目指す実践の報告であった。問題点として、文書規程を定めたものの収集対象の範囲が不明確であることなどにより、保存年限経過文書や廃棄文書のアーカイヴズへの移管が進展しないこと、規程の対象外となっている「モノ資料」が収集対象として不明確な位置付けにあることなどが報告された。

第二報告である井上美香子氏（福岡女学院資料室）「私立学校アーカイヴズの役割に関

と改めて感じた。今後も大学史資料協議会で学ばせていただきながら、日々の業務に活かしていきたい。最後にこのような講演を拝聴する機会をいただき、九州大学大学文書館の関係者の皆様をはじめ運営いただいた方々にはお礼を申し上げたい。



総括討論の様子

する事例報告—福岡女学院に関するアイデンティティの形成から—」では、古い年代の史資料の残存が少ない福岡女学院の現状と、オーラルの収集や「学院歌」の制定（2018 年）への関与などといった実践を踏まえての提言があった。なかでも、同資料室が新しい年代の史資料の収集を積極的に行い、利用者とともに学校のアイデンティティとなる「新しい歴史」を作っていく必要性を指摘した点が印象的であった。

第三報告である高野裕基氏（國學院大學）「國學院大學の校史研究と関連資料の収集について」は、研究機関による大学史資料の収集・活用の事例であった。神道や国学を中心とする「学統」に関連する史資料を収集対象としていること、「学校史」の範疇においてではなく、広く国学や人文学の歴史のなかで自校史を把握することを目的として収集している点が印象的であった。

以上、各学校が収集対象としている史資料に関する報告ののち、総括討論では寄贈申請があった史資料の受入れを断った事例に議論が及んだことにより、収集範囲の「線引き」について理解を深めることが試みられた。各学校とも一定の基準が設けられていたが、ここで想起されるべきは第二報告で指摘されて

いた、アーカイヴズ側が無意識のうちに収集の範囲を限定してしまい、重要な史資料の収集に結び付かない場合が起こりうることである。収集が必須である史資料については、私立学校における創立者関係資料や組織の意思決定過程を示す文書など、大まかな合意形成を得ることができると思うが、範囲設定についてはレファレンスや研究の蓄積に基づく基準の絶えざる見直しが必要と思われる。さらに史資料の評価選別に関して、総括討論では大学史に通暁した研究者レベルの人材確保の必要性に話が及んだ。史資料の収集範囲の基準設定（評価選別）のためには、自己研鑽を含めて、このような人材の配置が必要であることを認識させられた研究会であった。

2018年12月6日（木） 研究会

第112回研究会（フェリス女学院大学）に参加して

お茶の水女子大学歴史資料館 長嶋 健太郎

第112回大学史資料協議会東日本部会研究会は、2018年12月6日（木）14時からフェリス女学院大学緑園キャンパス（神奈川県横浜市泉区）で開催された。冒頭、フェリス女学院学院長の鈴木佳秀氏より挨拶があり、続いて、本部事務局長・資料室長・150年史編纂委員の星野薫氏により1つ目の講演「フェリス女学院の歴史と資料室」がおこなわれ、国際交流学部教授・150年史編纂委員の大西比呂志氏によって2つ目の講演

「学院資料の収集 学校の内と外」がおこなわれた。質疑の後、ウェルカムセンターでの学院資料展示の自由見学となった。

星野氏からは、キャンパスの紹介や学生・教職員数などの大学の簡単な概要、大学の歴史の紹介の後、フェリス女学院資料室の歴史・体制・活動、150周年記念事業について、詳しくご説明頂いた。

大西氏からは、「フェリス女学院150年史」編集の基本方針の1つである、「地域・社会・



ウエルカムセンターでの資料紹介

文化史の視点から教職員・同窓生などの記録を調査、地域の姿との関わりを解明する」という視点から、アメリカでの資料調査や高知での地方調査などの新しい資料を求める調査をご紹介いただき、資料収集、資料集の刊行などで内を充実させることは勿論、外部との広がりを持つことの重要性を伺った。

お茶の水女子大学は、2025年に創立150周年を迎える。国立、私立の違いはあれど、同じ女子大として先に150周年を迎えるフェリス女学院のノウハウを学ぶべく今回の研究会に参加した。今回お話を伺い、大学の規模や関東大震災での被災などに加え、『100年史』編纂を機に資料室の前身となる組織が

出来たことなど、類似点が非常に多いことに驚くとともに勝手に親近感を抱いた。その一方で、委員会から速やかに資料室へと移行していることや現在の体制での人員配置など、内部的には恐らく不足・不満もあるのであろうが、外から見ると羨ましく見習うべき点が非常に多いと感じた。また、実際の活動についても『(仮)所蔵資料目録』の作成や通巻71号になる紀要の発行など着実な成果をあげられている。『150年史』編纂についても、『150年史資料集』はすでに5集まで発行されており、1集は2010年の刊行であり、150周年の10年前の刊行である。感銘を受けるとともに、本学の状況を鑑みるに焦りを覚えざるを得ない。また、2本の講演からは150年史編集委員と資料室の連携の良さを伺わせ、非常に勉強になる研究会であった。

最後に、150周年記念事業として「150周年記念館（仮称）」内に資料館が設置され、2020年6月にはオープンする予定とのこと。無事の竣工を願うとともに、見学に伺える日を楽しみにしたい。

2019年1月24日（木）研究会

東日本部会 第113回 研究会に参加して — 2019年度の企画展について —

明星大学明星教育センター 長谷川 倫子

2019年1月24日（木）、立教大学池袋キャンパスにて東日本部会第113回研究会が開

催された。今回の研究会では、全国大学史資料協議会東日本部会30周年事業の一環と

して開催される 2019 年度の企画展について
の会場見学並びに概要説明、意見交換会が行
われた。本稿では、展示会場である立教学院
展示館の見学、展示趣旨説明や意見交換会か
ら得た感想を述べることで参加記としたい。

まず、14:30 ～ 15:00 で展示会場である
立教学院展示館を見学した。立教学院展示館
は、1919 年に落成された旧図書館を 2014
年に改装したもので、レンガ造りの建築に蔦
の絡まる外観が美しく、立教学院の歴史と趣
を感じる建物である。見学は、2 階の展示ス
ペースと使用予定の書架や机などの確認を
行った。書架や机についての説明を受け、机
にはアクリル板で作成したカバーをつけて展
示ケースにするということで、露出展示より、
安全性が図られると感じた。また、大学史料
の性質上、平面的な展示が多くなると予想さ
れるので、机での展示の際には、傾斜台を使
用するなどの工夫が必要であると感じた。そ
の他、プロジェクションも使用できるという
ことだったので、映像を効果的に使用でき
るのではないかと感じた。

15:00 ～ 15:30 からは、立教学院展示館の
豊田雅幸氏より、展示内容（案）について概
要の説明があった。今回の企画展示は、2019
年度が「新制大学」発足 70 年にあたるとい
うことで、「新制大学の発足」をテーマとす
ることになった。新制大学を主題としながらも
戦前、戦中、戦後の大学像を含めた展示案と
なっていたので、戦後の高度経済成長期（1964
年）に創立した本学も写真などの資料提供で



展示館で解説をする豊田氏

協力できるのではないかと考えた。

それから、15:30 ～ 16:30 展示企画に関
する意見交換会では、各校から様々な意見が
寄せられた。各大学で色々な意見が出されて
いたが、一般に向けてどのように展示の主旨
を伝えるかという意見が印象に残った。映像
コンテンツの制作や制服を復元して着られる
コーナーを作るなど、「見て・聞いて・触れる」
という体験型の展示というのは、来場者の関
心を引くのではないかと感じた。

各大学によって、設立経緯や創立年が異な
るため、一概にテーマをまとめることは難し
いかもしれない。しかし、このような大学の
垣根を越えての企画展示は、各々の大学の歴
史や教育活動、日本の大学制度の歴史を見せ
る良い機会であり、意義深いものであると感
じている。この企画展示が充実したものにな
るように、できるかぎり協力したい。全体の
テーマに沿いながらも各校の特色や魅力が伝
わる展示ができることを願い、本稿を締めく
くるとする。

全国大学史資料協議会 2018 年度総会議事録・講演会記録

日 時 2018 年 10 月 10 日 (水)

15 時～ 15 時 50 分

場 所 九州大学病院キャンパス

医学部 100 年講堂 中ホール

出席会員＜東日本部会＞

愛知大学 跡見学園女子大学

お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 慶応義塾 國學院大學

国土館 淑徳大学 専修大学

創価大学 拓殖大学 中央大学

帝京大学 東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東北学院

東北文化学園大学 富山大学

日本女子大学 日本大学 法政大学

北海道大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院 早稲田大学

古俣達郎 林慎一郎 松田栄作

＜西日本部会＞

大阪女学院 大阪市立大学

大阪大学 大阪府立大学 大谷大学

関西大学 関西学院 京都産業大学

近畿大学 甲南学園 神戸女学院

常翔学園 西南学院 天理大学

同志社大学 広島大学 福岡女学院

福岡大学 武庫川女子大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

九州大学

大畑博嗣 山本尚史

東日本部会＝ 31 会員 48 名

(内訳：28 大学 45 名、個人 3 名)

西日本部会＝ 25 会員 34 名

(内訳：23 大学 32 名、個人 2 名)

総 計＝ 56 会員 82 名

(内訳：51 大学 77 名、個人 5 名)

欠席届提出会員

東日本部会＝ 34 会員

西日本部会＝ 18 会員

司 会 関西学院大学 荒木 邦弘氏 (全国
大学史資料協議会西日本部会庶務校)

会場校挨拶

九州大学大学文書館館長・副学長

宮本 一夫氏

開会挨拶 神奈川大学 池原 治氏

(全国大学史資料協議会会長校)

議長選出 議 長 杉崎 友美氏

(日本女子大学)

副議長 高須賀真有氏

(大阪市立大学)

総会の成立 議事に先立ち、西日本部会庶務校 (関西学院大学・荒木邦弘氏) より総会が成立することが確認・報告された。

議 題 (1) 2018 年度役員会の報告について
西日本部会庶務校 (関西学院大学・荒木邦弘氏) から、本総会に先立ち開催された全国役員会での審議内容が報告された (全国役員会審議内容は全国役員会議事録を参照のこと)。

(2) 2018 年度東・西両部会事業計画報告

東日本部会事務局 (日本大学・松原太郎氏)、西日本部会庶務校 (関西学院大学・荒木邦弘氏) から、各部会事業計画書に基づいて本年度の事業計画が報告された。

(3) 2018－2019 年度役員の交代について

西日本部会庶務校 (関西大学大学・荒木邦弘氏) から、2018－2019 年度の全国大学史資料協議会の会長を関西大学、副会長を明治大学、

事務局を関西学院大学とすることが提案され、異議なく承認された。

(4) その他

2019 年度総会ならびに全国研究会は立教大学で開催予定であることが報告された。

最後に新しく選出された会長校の伊藤信明氏（関西大学）より挨拶があった。

講演 折田 悦郎氏

（九州大学大学文書館副館長・
大学院統合新領域学府副学府長）

演題 「大学史資料と大学アーカイヴズ
—九州大学大学文書館の課題と展望—」

〔概要〕 2018 年度総会終了後、会場である九州大学大学文書館の折田悦郎氏による、標記講演が行なわれた。同館は 1992 年設置の九州大学大学史料室を基礎として、2005 年に設置された。2011 年には「国立公文書館等」に類する機能を有する施設として内閣総理大臣の指定を受けている。折田氏はまず、同館の組織・目的・組織体制の概要について紹介を行なった。その後同館の前身組織から携わった自身の経験を踏まえ、前身の沿革史編纂機関である 75 年史編纂室から、独立したアーカイヴズとして大学史料室の改組につなげていったことが紹介された。その上で、伊都キャンパスへの移転にともなう箱崎キャンパスの記憶を残すプロジェクトとしてドローンを使用した空撮を行なっていることや、沿革史編纂の状況、自校史教育、いわゆる LMA 連携等について展望を述べた。折田氏は年史編集と大学アーカイヴズは

大学の力量を示すものであり、それを担保するための人材やポストの確保がきわめて重要なことを強調し講演を締めくくった。

（村松玄太）

見学 九州大学附属図書館医学図書館・九州大学医学歴史館

情報交換会 見学会終了後、九州大学病院キャンパス医学部 100 年講堂中ホールにおいて情報交換会を開催した。司会は武庫川女子大学の古野貢氏が行った。開会挨拶は協議会会長校の伊藤信明氏（関西大学）が、乾杯の音頭は西口忠氏（桃山学院）がそれぞれ務めた。閉会の辞は東日本部会会長校の村松玄太氏（明治大学）が行った。

全国大学史資料協議会

2018 年度役員会議事録

日時 2018 年 10 月 10 日（水）
13 時 30 分～14 時 00 分

場所 九州大学病院キャンパス
医学部 100 年講堂 中ホール

出席＜東日本部会＞

学習院（監査委員）

神奈川大学（会計委員・運営委員
＜ウェブ担当＞）

國學院大学（運営委員＜叢書・会報
担当＞）

専修大学（副会長・監査委員）

帝京大学（運営委員）

東海大学（会計委員）

東京経済大学（運営委員）

日本大学（事務局）

淑徳大学（運営委員）

武蔵野美術大学（副会長）
明治大学（会長・運営委員〈ウェブ
担当〉）

立教学院（事務局）
古俣達郎（運営委員）

＜西日本部会＞

大阪女学院（幹事校）
大阪大学（会報校）
関西大学（部会長校）
関西学院大学（庶務校）
同志社大学（副庶務校）
広島大学（HP 担当校）
武庫川女子大学（副部会長校）
桃山学院（監査校）

立命館（会計校）

司 会 荒木 邦広氏（関西学院大学）

議 事 (1) 2018 年度総会・全国研究会の
運営について

西日本部会庶務校（関西学院）か
ら、大会運営について、役割分担表
に基づいて説明があり、これに従っ
て運営することを確認した。

(2) 2018—2019 年度役員の交代
について

2018—2019 年度の全国大学史
資料協議会の会長を関西大学、副会
長を明治大学、事務局を関西学院大
学とすることが了承され、総会に諮
ることになった。

(3) 2018 年度東西両部会の共同事
業について

東西両部会の共同事業として、協
議会ホームページに会員校の紹介
ページを設けることが報告された。

2018 年度の研究叢書 20 号の編集
発行は西日本部会で行い、2019 年
度内に刊行することが確認された。
2017 年度の研究叢書第 19 号は、

担当の東日本部会から、現在編集作
業中で、発行後郵送するとの報告が
あった。

(4) その他

東日本部会事務局（日本大学）か
ら、2019 年度総会ならびに全国研
究会について提案があり、了承した。
会場は立教大学、日時は 10 月の第
1 週または第 2 週で 3 日間の予定。

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第 177 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2018 年 10 月 10 日（水）

13 時 00 分～13 時 15 分

会 場 九州大学医学部

100 年講堂 中ホール

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 帝京大学 東海大学

東京経済大学 日本大学 淑徳大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古俣達郎

議 題 (1) 2018 年度総会ならびに全国研
究会の運営について

・事務局（日本大学・立教学院）よ
り、全国研究会のスケジュール及
び役割分担が確認された。

(2) 30 周年シンポジウム報告書に
ついて

・30 周年記念事業検討 WG（シン
ポジウム担当）を中心として、次
回の幹事会までに報告書の体裁・
内容のたたき台を作成することと
なった。

第178回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2018年12月6日(木)

13時00分～13時35分

会 場 フェリス女学院大学 緑園キャンパス
2号館(CLA棟)2403室

出 席 神奈川大学 淑徳大学 専修大学
東海大学 東京経済大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
古俣達郎

議 題 (1) 2018年度全国研究会総括

- ・2018年度総会ならびに全国研究会について総括を行った。西日本部会から会計の報告を受けてから、費用按分等の処理を行う。

(2) 創立30周年記念事業WGについて

- ・幹事会に先立ち記念事業WGが開催された。
- ・シンポジウム報告書については、記念講演の荒川先生の初校を終えた。テープおこしをパネリストに渡すこととなった。また、判型は叢書と同様のA5判とし、部数は300部で進めることに決定した。
- ・2019年10月開催の全国研究会開催に合わせて、会場校の立教学院展示館で大学史展示を実施することが前回の幹事会で検討された。この共催展については、30周年記念事業の一環としてワーキンググループが準備を進めることが承認された。会員には2019年度の東日本部会総会で諮ることがあらためて確認された。

(3) 2018年度研究会について

- ・1月研究会は立教大学で開催する

ことが確認された。3月については担当(國學院大学)より2つの見学先候補が提示され、引き続き検討することとなった。

(4) 2019年度東日本部会総会について

- ・全国研究会に合わせて新制大学に関する共催展示を計画しているため、全国研究会テーマも新制大学に関わるテーマとすることが確認された。テーマは引き続き検討する。

(5) 2019年度東日本部会総会について

- ・会場校として東京経済大学が提案され、引き受け可能かどうか検討してもらうこととなった。

(6) その他

- ・研究叢書及び会報について
12月中に会報は発送予定、叢書は年度内刊行予定。
- ・会員の入退会について
事務局より会員校の担当者追加について報告があった。
- ・会計校(東海大学)より、会費納付状況が報告された。

全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録

全国大学史資料協議会 2018年度全国研究会
(第111回全国大学史資料協議会東日本部会研究会)

テーマ 「大学史資料の収集と活用」

日 時 2018年10月11日(木)～12日(金)

会 場 2018年10月11日(木)

九州大学病院キャンパス

医学部100年講堂 中ホール

2018 年 10 月 12 日 (金)

九州大学 箱崎キャンパス

九州大学大学文書館等の見学

出席＜東日本部会＞

愛知大学 跡見学園女子大学

お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 慶応義塾 國學院大學

国土館 淑徳大学 専修大学

創価大学 拓殖大学 中央大学

帝京大学 東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東北学院

東北文化学園大学 富山大学

日本女子大学 日本大学 法政大学

北海道大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院 早稲田大学

古俣達郎 林慎一郎 松田栄作

東日本部会 = 31 会員 48 名

(内訳: 28 大学 45 名、個人 3 名)

＜西日本部会＞

大阪女学院 大阪市立大学

大阪大学 大阪府立大学 大谷大学

関西大学 関西学院 京都産業大学

近畿大学 甲南学園 神戸女学院

常翔学園 西南学院 天理大学

同志社大学 広島大学 福岡女学院

福岡大学 武庫川女子大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

九州大学

大畑博嗣 山本尚史

西日本部会 = 25 会員 34 名

(内訳: 23 大学 32 名、個人 2 名)

総計 = 56 会員 82 名

(内訳: 51 大学 77 名、個人 5 名)

開会挨拶 伊藤 信明氏(関西大学年史編纂室)

全国研究会テーマ

「大学史資料の収集と活用」

司会・テーマ発題

荒木 邦広氏(関西学院大学博物館)

報告 1 古野 貢氏

(武庫川女子大学共通教育部)

「学院資料収集の実践と課題」

〔概要〕 古野氏からは、武庫川学院創立 70 周年時の年史作成で明らかにになった課題を背景に旧規程の見直しを行い、新たに「文書規程」を策定した経緯とその後について報告があった。

旧規程では手続上から特に現用学院資料の参照が困難であったことや、資料の収集・保存の仕組みなどに少なからず問題があったことから、新たな「文書規程」の策定にあたっては古野氏と事務局幹部によるワーキンググループで検討を行い、合理的かつ組織的な文書の保存管理を可能とする規程案を作成した。その後機関決定を経て 2016 年から実運用が開始されたが、運用をはじめると様々な問題が浮き上がってきた。保存年数を経た文書の廃棄は誰が判断するのか、原本の保存を求めたもののペーパーレス化で原本がないケース等々である。

また文書規程における「その他の重要記録」についても線引きが曖昧であり関係者の共通認識が持ちにくいなど、規程はできたが定義を含め実用化できていない現状があるとのこと。報告では急を要する課題として、組織、人材、施設等の整備、とくにアーキビスト、学芸員の確保をあげている。(池原 治)

報告 2 井上美香子氏(福岡女学院資料室)

「私立学校アーカイブズの役割に関する事例報告—福岡女学院に関するアイデンティティの形成から—」

〔概要〕 井上氏からは1885（明治18）年創立以来の福岡女学院の沿革とキャンパスの変遷について、福岡女学院資料室の設置経緯・目的・施設設備・活動概要ならびに直面する課題が紹介された。

キャンパス移転をくり返し、空襲も受けたため創立期の資料がほとんど残されていないことから、新たに作成された資料を積極的に収集するとともに、オーラルヒストリーの実施や、新しい学院の歴史をつくっていく企画への支援といった資料室の取り組みが述べられ、事例としてセーラー服100周年プロジェクトへの参画が紹介された。1921（大正10）年に採用されたセーラー服が、胸の錨の刺繍に象徴されるように学校とキリスト教の教育理念を凝縮した存在であるとともに、生徒に身体活動の自由を与え他の女学校にも大きな影響を与えたとの指摘があった。また資料収集の範囲に関して、寄贈資料から発見された学生や生徒たちの“思い”や“言葉”を残し伝える資料の事例が紹介された。

井上氏は、学院のアイデンティティをめぐる資料室の役割について資料の整理と情報提供による歴史と伝統の可視化を挙げ、利用者とともに新たな歴史を発掘し、創り出していく場所としてのアーカイブズの可能性にふれて報告を結んだ。

（桑尾光太郎）

報告3 高野 裕基氏
（國學院大學研究開発推進機構）
「國學院大學の校史研究と関連資料の収集について」

〔概要〕 高野氏からは、まず國學院大學の建学の精神と歴史について紹介があり、次に校史研究機関の変遷について報告された。

國學院大學の校史研究機関は、昭和52年に國學院図書館内に設置された校史資料室を皮切りに、その後は、事務局系列の組織である広報部、総務部の管轄下となった。平成19年、研究開発推進機構の設置にあたり「校史・学術資産研究センター」として教育・研究部門の組織となるが、この背景には、平成14年に採択されたCOEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」と、その拠点としての伝統文化リサーチセンター（現國學院大學博物館）の設置があったという。

校史・学術資産研究センターは、大学史に留まらず広く国学を中心とした同大学の学統を示す資料を収集し、学術資料センター神道資料館部門では、神道関係資料が校史資料とは別に収集・管理されているとのことであった。（松原太郎）

総会討論

司 会 荒木 邦広氏

（関西学院大学大学博物館）

パネリスト 古野 貢氏

（武庫川女子大学共通教育部）

井上美香子氏（福岡女学院資料室）

高野 裕基氏

（國學院大學研究開発推進機構）

〔概要〕 全体討論では以下の点について活発な議論が交わされた。第一には、各大学アーカイブにおける資料収集の問題であり、大学史関連資料の収集方針やその範囲をめぐって、特に

一般には古文書と呼ばれる歴史資料と法人資料との差異や、文字資料と非文字資料（モノ資料）に関するそれぞれの整理・保存方法について質問がなされた。

第二には寄贈資料の受け入れに関する点であり、寄贈に至る経緯やその範囲、資料の受け入れをめぐる意思決定プロセスについて質疑が行われた。特に、寄贈資料の受け入れ拒否の事例や、資料の選別や受け入れに関する規程の有無など、収集規程の運用方法やその実態について多くの事例が紹介された。

第三には、大学の記憶継承に関する問題であった。大学史における負の歴史をめぐる語りの問題や、建学の理念を大学の歴史のなかでどのように語るべきなのか、という点に関して活発な質疑が行われた。

（檜皮瑞樹）

閉会挨拶 村松 玄太氏（明治大学）

見学会 九州大学箱崎キャンパス

〔概要〕 見学会は全国研究会の3日目、10月12日に行われた。9時45分に九州大学箱崎キャンパスの旧工学部本館内にある九州大学文書館に67名が集合し、2組に分かれて見学を行った。ここでは第1組の順路を紹介することにする。

10時から文書館の閲覧室において文書館の概要などの説明を受け、いくつかの書庫や仕分室をご案内いただき、ついで4階の会議室を見学した。この会議室は昭和天皇来学の玉座として設営され、壁には画家青山熊治が1932年に製作した油彩画が描かれている。これは縦257.0

cm×横572.3cmの大きなものである。その後展望室にのぼって周辺の風景を楽しんだ後、1925年に竣工した事務局本館内（旧本館）を見学した。ここで第2組と合流して近代建築物として貴重な正門や守衛室を見学、さらに昭和天皇・皇后お手植えの銀杏について説明を受けた。最後に、文書館に隣接し、福岡藩2代目藩主黒田忠之再建になる地藏堂があることで名づけられた地藏の森を見学し、12時に解散となった。

（桜井昭男）

第112回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2018年12月6日（木）

14時00分～16時00分

会 場 フェリス女学院大学 緑園キャンパス
2号館（CLA棟）2403室

出 席 お茶の水女子大学 神奈川大学
淑徳大学 女子美術大学 専修大学
拓殖大学 東海大学 東京経済大学
東邦大学 東北学院 日本大学
法政大学 武蔵野美術大学
明治大学 明星大学 立教学院
早稲田大学
古俣達郎 嶋みどり 古郡信幸

会長挨拶 村松 玄太氏

（明治大学史資料センター）

司 会 椿田 卓士氏

（東海大学学園史資料センター）

講演① 星野 薫氏

（フェリス女学院資料室長・150年史編纂委員）

「フェリス女学院の歴史と資料室」

講演② 大西比呂志氏

（フェリス女学院大学国際交流学部

教授・150 年史編纂委員)

「学院資料の収集 学校の内と外」

見 学 ウェルカムセンター (2 階)

〔概要〕 今回の研究会では、フェリス女学院における学院史資料の調査収集に関する活動とともに、2020 年の創立 150 周年に向けて、記念事業の一環として取り組みが開始された「フェリス女学院 150 年史」の編纂事業について報告がなされた。

星野資料室長の報告では、1976 年に設置されたフェリス女学院資料室のあゆみと現在の活動が紹介され、150 周年を迎える 2020 年には「フェリス女学院 150 年史」の刊行と「150 周年記念館」・「資料館」(いずれも仮称)の開設が予定されていることが報告された。

大西教授の報告では、「学院資料の収集 学校の内と外」と題して、「地域・社会・文化史の視点から教職員・同窓生などの記録を調査、地域の姿との関わりを解明する」という「150 年史」編纂の基本方針のもと、実際どのような資料収集活動が行われているのか紹介された。学外ではアメリカ (ホープカレッジ、ラトガース大学など)、横浜開港資料館、高知市立自由民権記念館 (細川家資料)、宿毛市 (大江卓御遺族) などで資料収集を行っており、学内でのアーカイブ機能の充実とともにキャンパス周辺地域を含めた学外との連携が目指されていることが報告された。

講演後には、キャンパス間の移動が年史編纂に与える影響や周辺地域の博物館との連携をテーマに質疑応

答が行われた。その後、同学院ウェルカムセンターに移動し、学院史にかかわる様々な史資料を閲覧した。

(古俣達郎)

第 113 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

日 時 2019 年 1 月 24 日 (木)

14 時 30 分～16 時 30 分

会 場 立教大学 池袋キャンパス
太刀川記念館 3 階カンファレンス・
ルーム

出 席 青山学院 学習院 神奈川大学
国立音楽大学 國學院大學
淑徳大学 上智大学 聖路加国際大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
東京家政大学 東京経済大学
東洋学園大学 東洋大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治学院
明治大学 明星大学 立教学院
古俣達郎

会長挨拶 村松 玄太氏
(明治大学史資料センター)

司 会 瀬戸口龍一氏
(専修大学大学史資料課)

趣旨説明 豊田 雅幸氏 (立教学院展示館)
「2019 年度の企画展について」

見 学 立教学院展示館

〔概要〕 第 113 回研究会では、会長校である明治大学村松氏より挨拶がなされた後、「2019 年度の企画展について」の説明と意見交換が行われた。まずは参加者全員で立教学院展示館へ移動し、企画展スペースのレイアウトや仕様を中心に確認した。その上で、2019 年 10 月～12 月にかけて同展示館で東日本部会との共同開催の形で企画展を行うことについて、立教学院展示館の豊田氏より展

示案の詳細を伺った。テーマは「新制大学の発足」とし、全会員校が参加可能であること、大学史全体を俯瞰したものを説明に加え、その上で新学制の整備期と新制大学の発足までの流れも理解できるように展示していくこと等が解説された。その後、参加者によって同展示会の開催の可否も含めて意見交換が行われ、テーマや開催については全員が賛同し、費用については会の30周年基金を利用することが確認された。そのほか、映像を効果的に使ったり体験型にして（角帽や制服を実際に着て）みたりはどうか、各大学へは早目の指示をお願いしたい、等の意見が出された。最後に、各大学が自校の面白いと思う資料をそれぞれに出せば良い展示になるのではという意見によってまとめられ、散会となった。

(浅沼薫奈)

全国大学史資料協議会

東日本部会会員名簿

(2018年10月10日現在)

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ・総合学術情報センター
- 2 愛知大学 東亜同文書院大学記念センター（豊橋研究支援課）
- 3 青山学院 資料センター
- 4 跡見学園女子大学 庶務課 大学資料室
- 5 お茶の水女子大学 歴史資料館
- 6 学習院 学習院アーカイブズ
- 7 神奈川大学 大学資料編纂室
- 8 関東学院 学院史資料室
- 9 国立音楽大学 校史資料室
- 10 慶應義塾 福澤研究センター
- 11 恵泉女学園 史料室
- 12 皇學館大学 研究開発推進センター
- 13 國學院大學 校史・学術資産研究センター
- 14 国際基督教大学 歴史資料室
- 15 学校法人国士館 国士館史資料室
- 16 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
- 17 芝浦工業大学 経営企画部企画広報課・図書館
- 18 自由学園 自由学園資料室
- 19 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
- 20 上智大学 史資料室
- 21 女子美術大学 歴史資料室
- 22 成城学園 教育研究所（成城学園百年史編纂室）
- 23 聖心女子大学 総務部（大学アーカイブズ）
- 24 聖路加国際大学 大学史編纂・資料室
- 25 専修大学 総務部大学史資料課
- 26 創価大学 創価教育研究所
- 27 大東文化大学 大東文化歴史資料館（大東アーカイブズ）
- 28 拓殖大学 創立百年史編纂室
- 29 玉川大学 教育博物館
- 30 多摩美術大学 大学史編纂室
- 31 中央大学 広報室 大学史資料課
- 32 津田塾大学 津田梅子資料室
- 33 帝京大学 帝京大学総合博物館
- 34 東海大学 学園史資料センター
- 35 東京家政大学 広報連絡会議（総務部総務課）
- 36 東京経済大学 図書館・史料室
- 37 東京女子医科大学 史料室・吉岡彌生記念室
- 38 東京女子大学 大学運営部総務課 大学資料室

- 39 東京電機大学 総務部（企画広報担当）
- 40 東京農業大学 図書館事務課
- 41 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
（法人本部経営企画部）
- 42 東北学院 東北学院史資料センター
- 43 東北大学 史料館
- 44 東北文化学園大学
図書館事務室（学園史編纂室）
- 45 東洋英和女学院 史料室
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 47 東洋大学 井上円了記念博物館・井上
円了研究センター
- 48 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 49 富山大学
総務部アーカイヴズ設置検討準備室
- 50 南山学園 南山アーカイブズ
- 51 日本女子大学 成瀬記念館
- 52 日本体育大学 図書館
- 53 日本大学 企画広報部広報課
- 54 フェリス女学院 資料室
- 55 法政大学 法政大学史センター
- 56 北海道大学 大学文書館
- 57 武蔵学園 記念室
- 58 武蔵野美術大学 法人企画グループ
法人企画チーム 大学史史料室
- 59 明海大学 浦安キャンパス
メディアセンター（図書館）
- 60 明治学院 歴史資料館
- 61 明治大学 大学史資料センター
- 62 明星大学 明星教育センター
- 63 立教学院 立教学院展示館
- 64 立教女学院 資料室
- 65 立教大学 立教学院史資料センター
- 66 立正大学
学長室 大学史料編纂課・史料編纂室
- 67 早稲田大学 大学史資料センター

以上機関会員 67・個人会員 33・名誉会員 6

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会
東日本部会に関するお問い合わせ、入会
申し込みは、下記へご連絡ください。

【専修大学 総務部大学史資料課】

〒 101-8425

東京都千代田区神田神保町 3-8

☎ 03-3265-5879

【立教学院 立教学院展示館】

〒 171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1

☎ 03-3985-4841

会 報 編 集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒 150-8440

東京都渋谷区東 4-10-28

☎ 03-5466-6677